県PTA広報
とっとり
平成29年3月3日
76号

第46回日本PTA中国ブロック研究大会とっとり大会

みんな輝け☆つながれ未来

～心のふるさと育てよう～

中国ブロックのPTA会員 約2,000人がとっとりに集う!!

みんなで考えた「ふるさと」「つながり」

「ふるさと」とのつながりが大切

本大会は鳥取県中部地震から三週間、全国各地の日Pの仲間からたくさんのご支援や励ましのお言葉を頂く中での開催となりました。皆様に心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

さて、「みんな輝け☆つながれ未来～心のふるさと育てよう～」の大会スローガンのもと、第46回日本PTA中国ブロック研究大会とっとり大会が、唱歌「ふるさと」にゆかりの深い鳥取市において、中国各地より約2,000名の会員が集い盛会に行われました。

午前中のホールでは地域をはじめ様々なつながりを実践している八頭町立隼小学校愛育会、鳥取市立東中学校教育振興会、福部未来学園小学校PTAの発表がありました。

八頭町立隼小学校愛育会は、伝統あるプールを拠り所としてPTAと地域が一つになって子どもたちを支えるつながりを発表し、最後に代々受け継がれている水泳の歌「しぶきをあげて」を児童が披露し感動に包まれました。

鳥取市立東中学校教育振興会は、PTAと地域が中学校区を一つのコミュニティとして捉え、校区内の三つの小学校と一体となって統一スローガンを掲げ、地域全体で子どもたちを見守る活動のつながりを発表しました。文科省が進めているコミュニティースクール（地域協働学校）の参考になる発表でした。

幼少中一貫校の福部未来学園小学校PTAは、地域の先人たちがPTAとともに未来の子どもたちへ熱い想いを託し一丸となって活動を展開している、過去から未来への時間軸のつながりを発表して頂き、地域全体で子どもを育む、その要となるのがPTAであることを再認識致しました。発表直前にはロビーで福部の名産品をPRしていた方々から突然の声援が飛ぶというサプライズもありました。

昼食をはさんでからは、アトラクションとして、八東平成太鼓チビッコ蓮による太鼓のパフォーマンス、鳥取市立国府中学校傘踊り同好会によるしゃんしゃん傘踊り、岩美町立岩美北小学校6年生による手旗演技の披露がありました。たくさんの大人がいて緊張する中、子どもたちの頑張る姿にとても大きな拍手が沸きました。

更に記念講演では、「We are シンセキ!」でおなじみのおせっかいオバチャンこと山本シュウさんを講師に迎え「つながろう!～家庭・学校・地域でつくる心のふるさと～」の演題で、人とのつながりの大切さをお話し頂きました。

コミュニケーションの五条、理解の力タチなど、その日から役立つ具体的な手法も教えて頂きながら、お笑いと感動で包まれた素晴らしい講演で幕を閉じました。

今回の大会で「ふるさと（地域や人）」とのつながりが子どもたちにとっていかに大切であるか、我々大人が地域の中で互いに見守り育て合うことで、子どもたちは様々な人とつながり、多様な価値観に触れ、多くの体験を積み、豊かな人間性を育んでいくことを学びました。

最後に、大会の開催に携わって頂いたすべての皆様に心より感謝申し上げます。

優良ＰＴＡ文部科学大臣表彰
鳥取市立東郷小学校ＰＴＡ
鳥取市立遷喬小学校ＰＴＡ

日本ＰＴＡ全国協議会会長表彰（団体）
鳥取市立東郷小学校ＰＴＡ
米子市立湊山中学校振興会

日本ＰＴＡ全国協議会会長表彰（個人）
●山代　豊　●長尾　志保
●青山　哲尚　●川上　絵里子

第38回全国小中学校ＰＴＡ広報紙コンクール表彰も同日行われました。

喜びの受賞者

CONTENTS

このロゴマークは八橋小PTAの中本優紀さんのデザインによるものです

【P1】
・第46回日本ＰＴＡ中国ブロック研究大会とっとり大会報告
・日Ｐ表彰関係報告
【P2】
・日本PTA中国ブロック研究大会とっとり大会記念講演報告
・とっとり大会あれこれ
【P3】
・鳥取県中部地震に関する募金についての報告
・キャリア教育優良PTA文部科学大臣表彰受賞PTA紹介
・日本PTA中国ブロック研究大会広島県ふくやま大会案内
【P4】
・とっとり子どもサミット予告
・会長が答えるPTA
・ＰＴＡ保険広告

編集・発行
鳥取県PTA協議会

事務局
〒680-0846　鳥取市扇町21
県民ふれあい会館内
TEL：0857-21-2285
FAX: 0857-21-0906
E-mail:tori-pta@gamma.ocn.ne.jp
http://www.tottori-pta.net/

第46回日本PTA中国ブロック研究大会

とっとり大会記念講演

昭和の決起集会へようこそ！

レモンさん（山本シュウ）

演題　「つながろう！～家庭・学校・地域でつくる心のふるさと～」

講師　山本シュウ氏

1 レモンさん登場

オープニングＤＶＤが流れる中「どうも～！こんにちは～！」と声がします。なんと、サプライズ演出でどこからともなくレモンのかぶりもので「レモンさん」が登場。客席を歩きながら握手、握手。そしてステージへ。場内がアットホームな雰囲気に一変しました。シュウさんの大きな声と元気なアクションそのままに、講演が始まります。４枚のホワイトボードを使い、そしてステージの端から端まで動きながら、家庭で起こっている全国ネットの会話やシーンの数々を、保護者や子どもの役を何役もこなしながら、コミュニケーションのコツをわかりやすく身振り手振りを交えてお話しいただきました。なによりテンポが速い！そして面白い！ＰＴＡの講演会では珍しく、笑いが途切れることがありません。大爆笑の中、グイグイと話に引き込まれました。

2 昭和のICチップ

時代は常に変化しています。変化の中で家庭、学校、地域で子どもたちを支えることが難しくなってきました。平成生まれ世代の子どもたちと私たち昭和世代との感覚のずれが、コミュニケーション崩壊を引き起こしているからです。私たちは、自分たちが受けてきたことと同じやり方で、新しい時代の子どもたちと関わろうとします。でも、なぜかぶつかってしまう。失敗してしまう。無意識に出てしまう昭和のやり方「昭和のチップ」が、平成の子どもたちには時代遅れでマッチしないのです。私たちが悪いのでしょうか？「誰も悪くないよ、ボクらも昭和を生き抜くために必要だったんだ」シュウさんの言葉に救われた思いがしました。「昭和のチップ」が身体に染み込んでいることを自覚すれば、少しずつ折り合っていけるようになります。

3 大切なみんなの命

子どもたちが社会に出るころには、今よりも多様性が求められる時代になります。私たちには、子どもたちの能力や才能を伸ばしてやることが求められています。自立する力も身に付けさせなければならない。そしてそれは命あってのことです。自分の命、もちろん我が子の命も、血のつながりのある先祖だけではなく、多くの人たちに支えられて、守られて、今日までつながって来たものです。「どうか幸せであってくれ」と誰もが願う命。自分の子もよその子も関係ない、みんなが大切な命を持っている。そう考えると、自ずと子どもへの接し方も変わってくるのではないかと思います。

4 We areシンセキ!!

ほんとうに盛りだくさんの内容で、あっという間の１００分間でした。すぐに使えそうなアイディアも多数いただきました。最後にはホロリとさせられる場面も。笑いと涙と感動は、生のトークの臨場感あってこそ。残念ながら文章では上手くお伝えすることができません。「輝いている大人がいれば子どもは元気になる」シュウさんのこの言葉を励みに、私たちＰＴＡが、家庭、学校、地域をつなげるおせっかい役になり、たくさんの汗をかいていこうではありませんか。それが子どもたちにとっての「ふるさと」になると信じて。

「We are シンセキ！ つながろう！」

とっとり大会あれこれ

岩美北小学校児童の感想

努力の証

岩美町立岩美北小学校　六年　池内　敦

スポットライトがぼくたちを照らしている。大会に参加された方が想像していたよりも多く、一気に緊張した。

ぼくたちは、手旗で歓迎の言葉を送り、クライマックスに向かった。

「Follow Me」の音楽が流れ始めた。手旗を使ったダンス。前に座っておられた方から手拍子が始まり、その手拍子は会場全体に広がっていった。注目が一気に集まる。手拍子はずっと続いた。会場は最高の雰囲気となり、最初緊張したことも忘れるほどだった。

ダンスが終わった後の拍手は、これまでに経験したものとは全然違ったものだった。

この発表をとおして、練習や努力の大切さをもう一度学んだ。６月の運動会に引き続き、特別講師の若林先生にお世話になり、当日を迎えた。本当に感謝したい。すごい大成功だった。本当にいい思い出になった。

大会実行委員長お礼

日本ＰＴＡ中国ブロック研究大会
実行委員長　河上　賀一

第４６回日本ＰＴＡ中国ブロック研究大会とっとり大会は、多くの方のおかにより無事に開催することができました。実行委員とスタッフの皆さん、参加いただいた各単位ＰＴＡの会員の方々、実践発表やアトラクションを始めご関係いただいたすべての皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。大会を通じ、私たち自身が様々なつながりを作りその中で子育てをすることで、子どもたちは「ふるさと」を実感し未来へと進むことができるのだと、改めて実感しました。大会で学んだこと、得たことを各単位 PTA で取り入れていただき、より充実した活動へとつなげていただくとともに、子どもたちが自分らしく成長できるよう、鳥取県内の小中学校ＰＴＡが一丸となってバックアップしていきましょう。よろしくお願いします。

スタッフへのお礼（アンケートから）

- 充実した大会でした。あっという間の一日でした。ありがとうございました。スタッフの皆さんお疲れ様でした。
- スタッフの皆さん、ありがとうございました。運営準備大変だったと思います。お疲れ様でした。とても良い会でした。ありがとうございました。改めて、子どもたちの環境をよくするためにＰＴＡの役割は重要だと思いました。
- スタッフの笑顔と気配りで楽しい時間を過ごせました。ありがとうございました。
- スタッフの皆様、親切にして下さって「おもてなし」の心が伝わってきました。震災があったにもかかわらず、本当にすばらしかったです。
- スタッフの対応Ｖｅｒｙ＆ｏｏｄ　大会運営スムーズだった
- お手伝いのお父さんＰＴＡの数、すごく多くびっくり！！です。うらやましいです。
- 朝の誘導から全てにおいて、多数の参加者への配慮が万全に行われていたと思います。ありがとうございました。会場もきれいで鳥取の品の良さが人を通して表れていたと思います。

大会記録集完成！
各単位PTAにお配りしました。

『235万円を倉吉市の子どもたちの給食に使ってください』

―鳥取県中部地震における募金を倉吉市教育長にお渡ししました。―

震災支援金贈呈（報告）

平成２９年１月３１日（火曜日）、倉吉市教育長室にて倉吉市教育長　福井伸一郎様に支援金の目録をお渡ししました。

倉吉市小中学校の学校給食にかかる支援金として、鳥取県内の小・中学校ＰＴＡ、中国ブロックＰＴＡ協議会からお寄せいただいた２３５万円を役立てていただくようお願いをいたしました。この地震で同様の被害を受けた東伯郡のＰＴＡからは全額倉吉市の子どもたちに役立ててほしいとの思いがあったこともお伝えしました。

子どもたちに大きな被害がなかったこと、そして、避難誘導、保護者への引き渡し等、大変なご苦労の中無事保護者のもとに届けていただきましたことに感謝の意を伝えました。

また、その後も様々な課題に対して迅速な判断をしていただいたことをお聞きし、改めて倉吉市の子どもたちのために教職員、教育委員会、行政が非常時の対応をしてくださったことに頭の下がる思いでした。

以下にその対応について記しています。

教育委員会の対応

【学校再開】

一刻も早く子どもたちの日常を取り戻すべく、耐震性のある学校がより安全であること、保護者が仕事で家を空けることを考慮し、休校することなく学校再開。

【心のケア】

県内市町村教委からはスクールソーシャルワーカーの派遣、兵庫県教委から震災・学校支援チームの支援を受け子どもたちの心のケアにあたった。

【給　　食】

・学校給食センター被災に伴い、パンと牛乳の簡易給食開始、食中毒を心配しながらも温かい食事を子どもたちに食べさせてやりたいという思いから炊き出しを許可。

・継続的に温かいものを食べさせたいとの思いに対し、県教委が間に入り、近隣の三朝・湯梨浜・北栄・琴浦町の給食センターから副食（汁物）を１日３～４校ずつ配送。

・弁当持参となってからは、短大調理給食、業者の弁当給食（２月からは２業者）を追加し、保護者の負担軽減を図った。この時、配食車・配食数・調理可能食数・弁当日（兄弟関係があるのでなるべく中学校区で指定）等を考慮し、パズルのような配食計画作成。

【震災の経験から学ぶ】

・体育館が避難所となったり、使用不可となったりした学校でもそれぞれ工夫して学習発表会・文化祭を開催し子どもたちの成長の糧となるようご指導いただいた。

・「地震が私に教えてくれたこと」と題した児童が書いた作文では、何事も前向きにとらえている子どもの言葉に明るい未来を感じ、日々の教育の賜物と実感。【※倉吉市教育長ＨＰに掲載】

大呂会長（左）と福井教育長（右）

大呂会長（左）と福井教育長（中央）、大津学校給食センター所長（右）

皆様ありがとうございました。

祝　キャリア教育優良PTA文部科学大臣表彰

―鳥取市立江山中学校 PTA ―

Ｑ１ この表彰の趣旨は？

「キャリア教育の充実発展に尽力し、顕著な功績が認められる教育委員会、学校及びPTA団体等について、その功績をたたえ、文部科学大臣が表彰することにより、キャリア教育の充実を促進することを目的とする。」と謳っています。

Ｑ２ 表彰の対象は？

PTA団体としては、『継続的にキャリア教育の充実、推進のために協力するなど、顕著な功績が、認められるPTA団体等』であり、

① 学校の教育活動に積極的に関わり、キャリア教育の充実に寄与しているPTA団体等

② 教育委員会及び学校がキャリア教育を円滑に推進するため、職場体験の受入先の確保

等、2年以上継続的に学校に協力し、推進体制の整備に積極的な活動を行っているPTA団体等　との規定があります。

Ｑ３ 顕著な功績って？

江山中学校PTAは、平成１１年鳥取市教育委員会が取り組みを始めた“地域で学ぶ職場体験活動（「ワクワクとっとり」）”を実施するにあたり、PTA役員と体験活動を行う中学校2年生の保護者を中心に、職場体験の受入先の事業所確保を学校と協力して現在も行っています。

職場の受入先の継続と新規開拓に向け、「ワクワク江山推進協議会」（構成員：PTAより会長1名、副会長2名、第1学年及び次年度第2学年の学年委員6名、学校から校長1名、学年担当2名、計12名）を実施前年度2月に設置し、希望職種（事業所）希望調査の結果をもとに調整を行っており、PTAの取組として引き継がれ伝統となっています。

3月中を目安にPTAの9名が分担して前年度受入の約20の事業所へ足を運び、趣旨説明と継続受入のお願いをしています。中学2年の約20名の生徒が、希望に添った事業所で職場体験できるよう、校区外の新規事業所開拓にも自発的に取り組んでいます。

この活動が、一人一人の自立を促し、意欲的に取組む職場体験となるよう、1事業所には少人数の受入れをお願いしています。このことにより、生徒へのきめ細やかな指導をしていただくことが出来、生徒の積極性や自発性を引き出す取り組みへとつながっています。

近藤PTA会長より

これまで毎年恒例行事のように当たり前に取り組んで来たことが、文部科学大臣表彰を受賞しうれしく思います。小さな中学校の小さな取組が、このように大きく評価されたことは、我々PTAにとっても自信とやる気につながりました。学校現場との連携を重要視しながら、これからもこの活動を伝統的に受け継ぎ、生徒たちの夢の実現につなげて行きたいと思います。

次回は広島県福山市で！

次回「第 47 回日本ＰＴＡ中国ブロック研究大会　広島県ふくやま大会」に参加しましょう！！

大会スローガン「咲かせよう　心の花を！　～寄りそおう子どもの心に、見直そう大人の心を～」

・開催日時・　平成29年11月11日（土曜日）10:00～開会式

・会　　場・　福山緑町公園屋内競技場　ローズアリーナ

・記念講演・　講師　明治大学文学部　齋藤　孝　教授

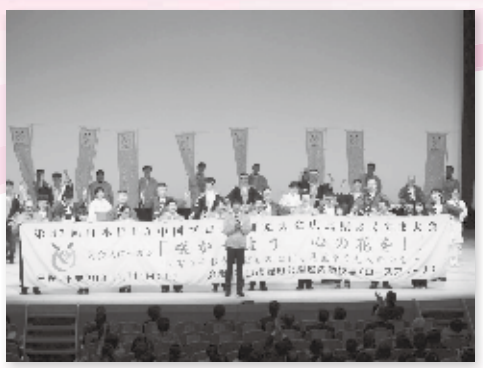
演題　「人間関係をつくるコミュニケーション力」

― パネルディスカッション ―

テーマ「心がつながるコミュニケーション」

人工知能・ロボットの出現によって、私たちの子どもの住む世界は大きく変わると言われています。その環境の中で生きていくために必要とされる能力は情報分析力、問題解決力、そして、コミュニケーション力と言われています。

このコミュニケーション力を学びに　ふくやま大会に参加しましょう！



広島県ふくやま大会ＰＲ隊

子どもの　子どもによる　子どものためのサミット

とっとり子どもサミット（仮称）の開催に向けて活動中です

❶目指すもの（目的）

子どもたち自身が今一番大切だと考える問題や課題を子どもたち自身で議論し、それを解決するための方策を自ら考え行動するきっかけとなる場「とっとり子どもサミット」と、子どもたちが考えた方策実現に向け、必要であれば大人（PTA）がフォローしていくための受け皿を子どもたちに提供する。子どもたちの考えや思いをしっかりと受け止め、応えることができる環境や仕組みを鳥取県全体に構築していく。

参加のお願い

子どもたちと並行して我々大人（PTA）も、子どもたちの本音を受け止める力、子どもたちに応える力に加え、ファシリテーション能力を磨いていく必要があると考えています。平成29年度の指導者研修会ではファシリテーション技術を身につけるための研修を用意させて頂く予定です。是非とも研修にご参加いただくとともに、お子様には「とっとり子どもサミット」への参加を促して頂き、親子がタッグを組んで共に成長していこうではありませんか。本活動に向けた皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

❷背景となる考え（課題）

我々大人たち（PTA）は子どもたちのためと銘打って、保護者の都合や教師の都合の大人目線で物事を考え、子どもたちに大人の考えを押し付けてはいないだろうか。ともすれば、子どもたちの本音（意見や思い）を受け止めないまま、押さえつけているようなことが増えてきてはいないのか。子どもたちのことを心から思い、正しいことだ、公正だ、正義だと信じ対応していたとしても、子どもの立場からみて、それが単に大人の都合（一方的な思い）だけであったならば、子どもたちは大人に向けた表面的な対応をとるだけで終わってしまい、問題は解決しない。メディア21：00運動にしても、いじめ問題にしても、渦中の子どもたちが自分たちの問題として捉え、子どもたちが中心となって本音で議論し、自分たちのために解決手段を検討し、ルール作りをしたならば、子どもたちは自身の問題解決に向け、子どもたちなりの異なるアプローチをとるのかもしれない。子どもたちの本音の意見や思いをしっかりと聞き、受け止め、その思いに応えながら、子どもたちをフォローしていくことが大切になる。

❸望むべき方向（狙い）

良い子だけが集まり、模範解答を得るためのサミットを目指すわけではない。様々な環境の中で育つ子どもたちが、いろいろな立場から、自分の思いをぶつけ合い、お互いの思いを反映した着地点を見出すことができるサミットであってほしい。サミットを実施することで、子どもたち自身の問題解決能力が高まることを期待しないわけではないが、それ以上に、我々大人だけでは解決が困難な問題や課題を、現場を良く知る、今まさに現場にいる子どもたちの力を借りることで、問題の本質的な解決に向けた行動につながることに期待したい。

子どもと大人（PTA）が手を取り合い協力し、解決に向け取り組んでいく。できることなら、子どもたちが決めた取り組みに、なるべく大人が関与せず、心大きく、温かく見守りたい。サミットを実施したから、取り組みを始めたからといって、子どもたちは一年で目に見える成果を上げる必要もないし、議論し決めたことが100％正しいことである必要もない。少しくらい間違っていても失敗を繰り返しながら、一歩一歩、一年一年前進し、先輩から後輩へバトンタッチを繰り返し、自らがより良いと思う方向へ進んでいってもらえるような、そういう環境をPTAとして子どもたちに提供したい。

大呂会長が答えるＰＴＡ

気がつけば、公益社団法人日本PTA全国協議会の理事という立場からもＰＴＡに参加させて頂いております。加えて、中国ブロックＰＴＡ協議会会長、鳥取県ＰＴＡ協議会会長。肩書きだけは凄そうに聞こえますが、ただの一保護者にすぎません。立場的にそれぞれの組織を経験させて頂いていますので、日頃、皆様からご質問を頂く各ＰＴＡ組織の役割と存在意義について少し整理してお話しさせて頂きます。

はじめに、以下に説明するそれぞれのＰＴＡ組織について、上部組織とか下部組織という呼び方をされる方もいらっしゃるようですが、その表現は適切ではないと考えています。単位ＰＴＡや県Ｐ、日Ｐに上も下もなく、それぞれの組織が連携し、協力し合って成り立っています。上下ではなく、各ＰＴＡ組織は横並びであることをイメージしながら読んで頂いたほうがよいでしょう。

■学級ＰＴＡ、単位ＰＴＡ

まず大前提として、ＰＴＡの中核は皆様が所属されている学校ごとに存在する単位ＰＴＡとなります。なかでも学級ＰＴＡ活動が一番大切だと一般的に考えられており、そこでは、学級の中で生じる問題や課題を保護者が協力し合い解決に向け取り組まれたり、その取り組みを円滑にするために、保護者同士のつながりを深める活動をされていることと思います。

それらを包括する単位ＰＴＡでは、学校や地域（校区）で子どもたちの健全育成に関連する取り組みが行われています。学校行事、地域行事、ＰＴＡ行事などが含まれることもあるでしょう。

■郡・市・町ＰＴＡ連合会

しかし、中には単位ＰＴＡだけではどうしても解決が困難な問題や課題が生じる場合もあります。市町村行政に関わる問題であったり、広域にまたがり解決を必要とする案件であったり。このような共通課題や問題を解決したり、市町村の教育機関や行政と向き合い対応していくための組織が、町Ｐ連や市Ｐ連、郡Ｐ連となってきます。

■鳥取県ＰＴＡ協議会

そして、鳥取県内の中学校、小学校ＰＴＡに加え、鳥取県中学校長会、鳥取県小学校長会と協力し、鳥取県行政や鳥取県教育委員会への要望活動、知事や県議会への要望や陳情、鳥取県全域にわたる共通課題や問題解決へ向けた取り組み、教育振興上の問題や課題の研究討議を行なっているのが鳥取県ＰＴＡ協議会（県Ｐ）となります。更に、県全域で展開しているメディア21:00運動や、県Ｐのスケールメリットを活かし42％割引でご提供させて頂いているＰＴＡ総合保険まで、様々な活動を行っています。

■中国ブロック協議会

鳥取県、島根県、山口県、岡山県、広島県、広島市の中国地方５県１政令指定都市から構成され、毎年開催される中国ブロック研究大会の運営や日Ｐへの提言など、広域な中国ブロックの意見の取りまとめや調整を行いながら、互いに連携し中国地方の発展的活動を行っています。

■日本ＰＴＡ全国協議会

全国64地方協議会が加盟する日本最大の社会教育関係団体で、各関係府省庁など、国が行う教育施策、教育改革へ向け積極的な要望活動を展開しています。昨年末も財務省提案の教職員定数削減に反対する要望書を提出いたしました。また、今日では当たり前とされている学校給食や教科書の無償配布は、日本ＰＴＡ全国協議会の先輩方が学校給食の制度化や教科書無償配付に向けた要請活動を精力的に行ってきたことに依るところが大きく、日Ｐという母体がなければ実現できていなかったかもしれないと思われます。日Ｐは時代の変化に応じつつ、我が国における社会教育、家庭教育の充実に向け、こどもたちのために日々活動をおこなっています。

このように各ＰＴＡ組織にはそれぞれの役割があり、保護者一人では解決が困難な問題であっても、皆がそれぞれの立場を尊重し協力し合うことで、より大きな力が生まれ、スケールメリットを活かした対応が可能となってきます。これからも、子どもたちのために未来のために、是非とも皆様のお力を貸しいただき、手を取り合いながら、一歩一歩、前に進んでいきましょう。そして、当協議会の活動が少しでも単位ＰＴＡのみなさまの活動のお役にたてるよう努めて参りたいと思います。今後ともご理解とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

鳥取県ＰＴＡ協議会 会長 大呂延幸

鳥取県PTA協議会　小・中学生総合保障制度（こども総合保険）

2017年４月募集からの内容です

★お子さまがケガ!?
ケガは24時間補償
（熱中症・細菌性食中毒も補償）

★学校へ携行する持ち物への備え
学校管理下動産補償
（身の回り品補償）

団体契約なので掛金が
約42%割安!!

★お子さまが加害者に!?
個人賠償責任補償
※総合保障制度なら、登下校中だけでなく日常生活の自転車事故による第三者賠償も補償します。

総合保障制度の詳細に関しましては、配布されたパンフレットをご覧になるか引受保険会社にお問合せください。

【引受保険会社】AIU損害保険㈱松江支店　松江市伊勢宮町519-1大同生命ビル3F
TEL.0852-26-2781 FAX.0852-26-2776（受付時間：午前9:00～午後5:00 土・日・祝日・年末年始を除く）

A-000709　有効期限2018年１月

PTA活動中の団体保険（PTA団体傷害保険・PTA賠償責任保険）

PTAが主催する行事中に参加中のケガ・賠償事故を補償します。

例えば保険ってどんなときに支払われるの？

このチラシは「PTA団体傷害保険・PTA賠償責任保険」の概要を説明したものです。詳しい内容につきましては、パンフレットをご覧ください。なお、ご不明な点は、取扱代理店または損保ジャパン日本興亜までお問い合わせください。

☆ＰＴＡ団体傷害保険
所属するＰＴＡの行事であるバレーボール大会の練習中、転んで足を骨折してしまった。
※ＰＴＡの管理下で練習を行っていることが条件となります
所属するＰＴＡの行事であるバザーで食中毒を起こし通院が必要となった。
※細菌性食中毒、ウイルス性食中毒を含みます

☆ＰＴＡ賠償責任保険 ※ＰＴＡ活動の遂行に伴い法律上の賠償責任が発生する場合に支払いとなります
所属するＰＴＡの行事である清掃活動時、草刈機を用いていたところ、飛び石により駐車場に停車中の車に傷をつけてしまった。

●取扱代理店
株式会社ライフアシスト
〒680－0873 鳥取市的場2丁目81
TEL 0857－51－7233　FAX 0857－51－7234
＜受付時間＞平日：午前９時から午後５時まで

●引受保険会社
損害保険ジャパン日本興亜株式会社
〒680－0822 鳥取市今町2-112　アクティ日ノ丸総本社ビル2F
TEL 0857－23－3301　FAX 0857－27－1510
＜受付時間＞平日：午前９時から午後５時まで

【事故サポートデスク】
0120－727－110
【受付時間】２４時間３６５日
SJNK16-10498(2016/11/1)